

シャープの最新情報

2013年度 経営基本方針発表会を開催 勝負の1年、全社員一丸となり再生と成長を果たそう

2013年1月10日
広報室

1月7日、「2013年度 経営基本方針発表会」を本社と国内外130拠点に同時中継し、開催。今年は、出席者を昨年までの管理職のみから社員全員に広げ実施しました。また、時差や会場の関係で視聴できない社員には、すみやかにビデオ上映会を開催し、全社員へ徹底を図りました。

初めに片山会長から新年度に向けての訓示があり「昨年、若い社員と語り合うことで、多くの優れた人材がいることが分かった。シャープは人でも決して負けていない。依然として厳しい状況にあるが、誇りを持って、新しいシャープを創っていこう」と呼びかけました。

続いて奥田社長から、「再生と成長に向けて」と題し、経営基本方針を発表しました。

冒頭、2012年度は過去最悪の赤字を見込んでいる中、9月以降売上高が4カ月連続して前年同月を上回り、回復の兆しが見えてきた当社の経営状況、ならびに取り巻く環境認識について説明がありました。

そして、今後の中期的な方向性として次の3点を明示しました。

1. 4つの事業群により、新たな生活商品を創造する企業“生活創造企業”を目指す
2. 顧客別カンパニー制の導入によりガバナンスを変革する
3. 変革をリードする本社を“小さく、強い本社”へ改革する

さらに、2012年度下期の営業利益の黒字化に引き続き、2013年度の至上命題「当期純利益の黒字化」を達成するために、次の2つのパラダイムシフトを実践するとし、それに基づく事業・地域毎の方針を明示しました。

- ①「作り手論理のオンリーワン」から「顧客重視のナンバーワン」
- ②「売上拡大」から「キャッシュ拡大」

最後に、「今こそ誠意と創意の原点に立ち返り『当たり前のことを当たり前にする』『自ら提案し、自ら行動する』ことが必要である。その前提として、会社と社員が一体となった良き企業風土づくりに取り組んでほしい」と徹底しました。

「2013年度は、私たちが反転攻勢の足がかりをつかむための勝負の1年である。成否は皆さん一人ひとりの実行にかかっている。職場内外で議論を尽くすことで今日の話をも自分の肚（はら）に落とし、『これまでの人生で一番頑張った』と実感できる構造改革実行の年にしてほしい。必ずシャープの再生と成長を果たそう」と力強く締めくくりました。

その後、世界各地のシャープから届いたビデオメッセージを放映して現地での取り組みと熱い意気込みを紹介し、再生と成長を誓い合いました。



シャープの再生を呼びかける片山会長



顧客重視の大切さを説く奥田社長

2013年 有力ご販売店向け新春年賀会を開催

フュージョン（融合）による「ワン・シャープ」で、再生と成長の年に
します！

2013年1月18日
広報室

1月17日、東京支社で有力ご販売店の皆さんをお迎えし、「新春年賀会」を開催しました。

冒頭、奥田社長が厳しい経営環境の中にも、明るい兆しが見え始めている当社の近況を説明しました。また、これからの消費をリードする人々の間で、“生活の進化・成長” “生活防衛” “つながりたい” の3つのニーズが高まることを紹介。“つながりたい”からは、通信ネットワークをイメージしがちですが、人と人が直接つながれるように、人を家庭に呼んで楽しく過ごしながらか、少し高くても良い商品や暮らしをお互いに紹介し合えるような生活スタイルを提案したいと強調しました。

これに対応する「未来を創る」「未来に備える」「知識・体験を共有する」の3つの商品を展開する“生活創造企業”を目指す方針を説明しました。

その上で、それぞれを代表する商品として、「IGZO液晶応用商品群」、「太陽光発電システム」および「ココロエンジンを活用した家庭内の暮らしアシストサービス」を紹介。お客様の目線から、具体的な特長や用途を提案しました。

そして、これらの商品のモノづくりには、「フュージョン（融合）」が大切であると伝え、先日表明した「顧客別カンパニー制」の中で、実現することを約束しました。また、当社の考える「カンパニー制」は、決してシャープを切り分けたり、別々の会社にするものではなく、ワン・シャープは変わらない旨を説明しました。

最後に、「今年は新たな100年に向けての大切なスタートの年。お客様目線の誠意と創意の原点に戻り、必ず『業績と信頼の回復』を果たします」と宣言し、流通の皆さまに力強い支援を呼びかけました。



ご販売店の皆さんに当社の近況を説明する奥田社長

2013年 有力資材お取引先年賀会を開催 一緒にフュージョンを進めて、 モノづくりを抜本的に改革していきましょう！

2013年1月28日
広報室

1月22日、本社に資材関連の有力お取引先165社258人の皆さんをお迎えし、年賀会を開催しました。今年は厳しい経営環境下でもあり、年賀会そのものを中止する考えもありましたが、このような時期だからこそ、お取引先の皆さんに正確な情報を発信し、当社の状況をしっかりご理解いただくべきと考え、実施しました。

式典では、初めに片山会長が「これからもシャープは皆さんと一緒に新しいことにチャレンジして、世界で輝く企業であり続けたい」と述べ、引き続きの支援をお願いしました。

続いて奥田社長から、「再び成長軌道に乗せ、失った信頼を取り戻す」ための今年度の取り組みを説明しました。

最初に、まだまだ予断を許さない経営環境にある中、IGZO搭載スマートフォンが売れ筋NO.1を獲得したことや、シャープらしい尖った特長を持つ商品が揃いつつあることなど、業績回復の手ごたえを感じている旨を報告。当社が「生活創造企業」を目指し、「健康・環境エネルギー」「デジタル情報家電」「ビジネスソリューション」「デバイス」の4つの事業群がフュージョン（融合）を促しながら、お客様に感動を与える商品開発を目指すことを表明しました。

また、将来を見据えて、教育やヘルスケアなど5つの成長分野に焦点を当てたR&Dを進め、技術イノベーションとお客様目線のバリュー・イノベーションを掛け合わせて、新規事業を創出する考えを説明しました。

さらに、「作り手論理のオンリーワン」から「お客様重視のセグメントナンバーワン」にパラダイムシフトし、「チャンネル」「お客さま」「エリア」「カテゴリ」の4つの新セグメントで「ナンバーワン」を目指すことを表明。「未来を創る商品」「未来に備える商品」「つながる商品」を、お客さまと共にひとつ先の未来をつくっていく「生活創造商品」と定義し、取り組んでいくことを強調しました。

最後に、「今日は私の姿を通して、『シャープは元気に、生まれ変わろうとしている』ことをお見せしたかった。シャープの復活は新しい商品にかかっている。R&Dの早い段階から一緒にフュージョンを進めて、モノづくりを抜本的に改革していきましょう」と、お取引先の皆さんに協力と支援を力強く呼び掛けました。

式典後の賀詞交換会では、辻特別顧問、町田相談役に各事業本部の幹部が加わり、出席者の皆さんと親睦を深めました。皆さんからは、「力強い話が聞け、感銘を受けた」「ユーザー目線に添った商品開発を進めるシャープの姿勢に安心した」などの感想が寄せられました。



お取引先の皆さんに支援をお願いする片山会長



業績回復の手ごたえを感じていると語る奥田社長

2013年 社友会年賀会を開催 OBの皆さんに、シャープの再生を誓う！

2013年1月29日
広報室

1月24日、本社に社友会411人の皆さんにお越しいただき、年賀会を開催しました。

式典では、社友会を代表して御手洗会長から、マスコミ報道に対して「多くのOBは、気が休まる日がなかったのでは」と当社の先行きを心配されていたことと、当社の再起を期待している旨のご挨拶をいただきました。

それを受けて、片山会長の挨拶の後、奥田社長から、社友会からの日ごろの支援に対する感謝と厳しい経営状況を招いたことに対するお詫びを述べ、1月7日に発表した経営基本方針の内容を具体的な事例を交えながら、明快な説明がありました。

一人ひとりが「誠意と創意」の精神に立ち返り、本年度をシャープの新世紀に向けたスタートの年にすることを力強く誓いました。

式典後の懇親会には、辻特別顧問と町田相談役も出席され、旧交を温めました。基本方針の説明に対して皆さんから、「社長から会社の方針を直接聞き、今後向かっていく方向がよく分かり、安心した」など好意的な声が寄せられました。



当社の再起を期待していると語る社友会代表 御手洗会長



経営再建の決意を述べる片山会長



シャープの新世紀に向けたスタートの年にすることを誓う奥田社長

メガソーラー発電所の建設完了、各地で式典や催しを開催

2012年12月26日
シャープアメニティシステム(株)



鹿沼ソーラーファーム竣工式の模様

大分県・栃木県・奈良県の各県でメガソーラー建設が完了しました。

シャープアメニティシステム（SAS）はこれらの案件で、太陽電池モジュールなど機材の納入やEPC※1を請け負っています。

建設完了を受け、各地で催しや式典が開催されました。

11月2日、大分県日出町の「藤原ソーラーパーク」（発電事業者/施工：(株)日出電機※2）が稼働。

17日～18日には、発電ビジネスの普及を狙い、企業を招いた現地見学会が開催されました。

29日、栃木県鹿沼市「鹿沼ソーラーファーム」（発電事業者/施工：藤井産業(株)※2）では、竣工式が開催されました。栃木県は、災害に強い街づくりを目指し「とちぎサンシャインプロジェクト」の一環として、メガソーラー事業を推奨しています。プロジェクトにおいても、鹿沼市としても初となるメガソーラーの稼働を、SASの宮永社長をはじめ約60人の関係者が祝いました。

12月3日には、「奥地建産 葛城太陽光発電所」で建設完了を祝した開所式が行われました。土地11,000平方メートル、パネル数4,160枚、発電容量998kwで、シャープ葛城工場に隣接するメガソーラーです。

開所式には、奥地建産社長、葛城市議会議長はじめ地元自治体関係者など約80人が出席し、盛大に完成を祝いました。式典ではソーラーシステムの向井本部長から、「各社のモジュールで実証実験をしている御社に採用頂けたことを誇らしく思います」とお礼を述べ、開所の喜びと来年に予定をしている稼働の無事を祈りました。

今後も、発電事業、施工企業、工事関係、および自治体関係の皆さまの期待に応え、メガソーラーの拡大に努めていきます。

※1 Engineering, Procurement and Constructionの略で、発電所建設において設計・調達・建設を行う事業者を指す呼称として用いられる

※2 (株)日出電機／藤井産業(株)・・・シャープサンビスタメンバー

「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」で起工式

2013年1月21日

広報室

ソーラーシステム事業本部



挨拶する向井本部長



当社製発電モジュールの展示

1月19日、ソフトバンクグループで自然エネルギー事業などを行うSBエナジー株式会社（以下SBエナジー）は、当社がEPC※を受注した「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」の起工式を実施しました。

起工式には、平井鳥取県知事、野坂米子市長をはじめとする関係者と、SBエナジーの藤井副社長、三井物産株式会社の常松 環境・新エネルギー事業部長、ソーラーシステム事業本部の向井本部長、同事業部システム設計センターの小西副所長が出席しました。

向井本部長は、「国内最大級となる42.9MWの発電所建設に着工できることを、協力いただいた皆様へ感謝します。50年以上に渡る当社のノウハウを活かし、ソーラーエネルギーをより多く発電させ、電力需給緩和や地域貢献に役立たせていくことを使命と認識しております」と挨拶しました。

本件は、2013年度内の稼働を目指しています。

■メガソーラー発電所の概要

名 称	ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク
事業主	鳥取米子ソーラーパーク株式会社 (出資構成：SBエナジー株式会社：50% 三井物産株式会社：50%)
所在地	鳥取県米子市葭津、及び米子市大崎
敷地面積	約532,000㎡(約53.2ha)
出力規模(モジュール容量)	約42,906kW(約42.9MW)
年間予想発電量	約4,527万kWh/年(初年度予想) 一般家庭約12,000世帯分の年間電力消費量に相当 (1世帯当たり3,600kWhで算出)
EPC	シャープ株式会社

※ Engineering, Procurement and Constructionの略。発電所建設において設計・調達・建設を行う事業者を指す呼称として用いられる。

日刊工業新聞社 第55回 2012年「十大新製品賞」

当社の「酸化物半導体（IGZO）採用の液晶パネルの量産化」が「本賞」を受賞

2013年1月24日

広報室

日刊工業新聞社が主催する第55回2012年「十大新製品賞」において、当社の「酸化物半導体（IGZO）採用の液晶パネルの量産化」が「本賞」を受賞しました。1月24日にホテルグランドパレス（東京都千代田区）で開催されました贈賞式に、水嶋副社長が出席しました。

「十大新製品賞」は2011年12月1日から2012年11月16日までに発売された新製品や開発発表された新技術で、独創性があり、わが国産業技術の向上等に大きく貢献するものに贈られる賞です。

「従来のアモルファスシリコンより優れた性能を持つ酸化物半導体（IGZO）採用の液晶パネルを世界で初めて量産化したことは、日本の液晶産業の復活の基盤となる」と評価されました。

当社は、1999年より14年連続で「十大新製品賞」を受賞しています。



（右）盾を受け取る水嶋副社長



受賞盾

SMMが液晶テレビ生産累計1000万台を達成

2013年1月28日
マレーシアの生産会社SMM



生産1000万台目のAQUOS
(左から SRSSC 貫里社長、アセアン本部 喜多村副本部長、SMM 寺岡社長)

2012年12月24日、SMMは90型AQUOSの生産をもって液晶テレビ生産累計1000万台を達成しました。

この偉業を祝い記念式典を開催。アセアン本部の喜多村副本部長、SRSSC※の貫里社長が出席しました。

記念式典では、まず、喜多村副本部長が「品質・価格・納期／(QCD)を守り、信頼と実績を積み重ねたことが今日へ繋がった」と功績をたたえました。続いて、寺岡社長が「従業員皆さんの、より良いものを作りたいという思いと日々の努力が今回の偉業達成へと結びつきました。気持ちを新たに、次の2000万台達成に向け邁進していきましょう」と、感謝と激励の意を述べました。

SMMは、今後も経営理念に基づき、高品質で競争力のある製品の生産を続けることで液晶テレビの生産拠点としての役割を果たしていきます。



式典の最後は従業員全員で記念撮影

※ マレーシアの販売会社